



イラク国民議会選挙は 法治国家連合の勝利

—次期首相選出への4つのシナリオ—

(一財) 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター

主任研究員 吉岡明子

はじめに

選挙からおおよそ3週間を経て発表された選挙結果は、マーリキ首相の勝利だった(図表1参照)。2014年4月30日に実施されたイラクの国民議会選挙は、4年ぶりの国政選挙であり、これ

まで二期8年の間政権の座にいるマーリキ首相にとって、三選に対する信任投票という意味合いを持っていたといえる。果たして、首相率いる「法治国家連合」は95議席を獲得し、2位以下を大きく引き離し、同連合の底堅い支持を見

図表1：2014年国民議会選挙結果

政党連合名	主な指導者	主な支持基盤	議席数
法治国家連合	N. マーリキ首相	シーア派	95
サドル派	M. サドル師	シーア派	34
市民連合	A. ハキーム師	シーア派	31
ムッタヒドゥーン	U. ヌジャイフィ国会議長	スンナ派	27
KDP	M. バルザーニ KRG 大統領	クルド	25
PUK	J. タラバーニ大統領	クルド	21
ワタニーヤ連合	I. アッラーウィ元首相	宗派横断型	21
アラビーヤ連合	S. ムトゥラク副首相	スンナ派	11
ゴラン	N. ムスタファ	クルド	9
国民改革潮流	I. ジャアファリ前首相	シーア派	6
ファディーラ党	M. ヤアクーブ師	シーア派	6
イラク連合	S. キターブ	宗派横断型	5
市民民主連合	共産党	宗派横断型	4
KIU	M. ファラジュ	クルド	4
KIG	A. バビール	クルド	3
アンバール忠誠連合	Q. ファフダーウィ前県知事	スンナ派	3
その他			15
少数派議席			8
合計			328

出所：選管資料などを基に筆者作成

注：サドル派の議席はアフラル連合(28議席)、国民参加集団、エリート潮流(各3議席)の合計
市民民主連合の議席には、独立民主連合(1議席)を含む

せつけた。そしてこの結果は、マーリキ首相が「次期首相」の座を巡る争いの先頭に立ったことを意味している。しかしながら、95議席という議席数は定数328の議会において3分の1弱に過ぎず、首相として続投できるかは、今後の連立交渉にかかっている。

以下では、まず、法治国家連合が何を背景にその支持を保ち、勝利を収めるに至ったのかという点を分析したい。そして、今後予定されている選挙結果の確定というプロセスに関して若干の考察を加えた後、これから交渉が本格化する首相選出と新政府の組閣について、予想される4つのシナリオを検討する。

マーリキ首相の選挙キャンペーン

まず、マーリキ首相が今回の選挙キャンペーンにおいて重点を置いていたことの一つは、治安問題である。イラクでは選挙の1年ほど前から徐々に治安が悪化傾向にあり、国連発表によると、2013年3月までの月間民間人死者数は200～500人程度であったが、その後は、少なくとも500人以上、多い月では1,000人近くに上っていた⁽¹⁾。とりわけ、中部のスナ派住民の多い地域やバグダード近郊に「ISIS」（イラクとシャームのイスラーム国家。前身はイラクのアル・カーイダ）や旧バアス党を母体とする武装勢力などが拠点を築いており、爆弾や銃撃などによるテロ攻撃を活発化させている⁽²⁾。4月初めには、ISISがファルージャ・ダムを占拠し水門を閉鎖したことで、ユーフラテス河下流への水不足と同時に、バグダード西部のダム周辺の町に大規模な人為的洪水を引き起こしたことが大問題となっていた。

こうした状況下にあって、マーリキ首相は、イラク軍の最高司令官として、断固としてテロと戦う強いリーダー像を打ち出した。選挙に先立つ1ヵ月間のキャンペーン期間中、「共にテロを根絶しよう」とのスローガンを掲げ、あらゆ

筆者紹介

1999年大阪外国語大学外国語学部卒。日本エネルギー経済研究所・中東研究センター研究員を経て2013年より現職。2007年にガルフ・リサーチ・センター客員研究員。専門はイラクの現代政治・経済並びにイラクにおけるクルド問題。

る場所でテロとの戦いを強調した⁽³⁾。町中には兵士や戦車をバックにしたマーリキ首相のポスターが多数貼られ⁽⁴⁾、強い指導者としての姿を強調することで、とりわけテロリストの標的とされることが多く、また首相の票田でもあるシーア派住民の不安感をすくい取り、彼らのために戦うリーダーというイメージを前面に押し出した⁽⁵⁾。3月末に、バグダードで大統領警護部隊のベシメルガ（クルド兵）が検問所でジャーナリストを射殺するという事件が発生した際に、マーリキ首相は自ら現場に足を運んで「血には血を」という言葉と共に、ベシメルガに犯人引き渡しを強く求めた⁽⁶⁾。また、首相はスナ派テロリストに対する複数の掃討作戦に「殉教者の復讐」と命名している。こうした姿勢からは、マーリキ首相がイラク国家のリーダーである一方、シーア派の守護者としての立ち位置を意識していることが見て取れる。

もう一つ、マーリキ首相が選挙キャンペーンで強調したことが復興プロジェクトの成果であった。例えば、大規模病院の開設（ナジャフ県）や10万戸に及ぶ大規模住宅プロジェクト（バグダード県）を直々に視察し、さらに、住宅問題を解決するため100万戸の新規建設に着手すると、の構想を打ち上げ、政権与党としての実績を強調した⁽⁷⁾。加えて、過去半年間、貧困層に対する土地配分プロジェクトを大々的にアピールして、バグダード県やバスラ県、ディカール県においては、やはり首相自らが視察を行っている⁽⁸⁾。

これらは政府の公共事業政策であると同時に、支配者から国民への「恩恵」、すなわち支持に対する見返りという側面もある。実際、法治

国家連合の候補者の一人は、カーディスィーヤ県の農家に対して投票と引き替えに土地を分け与えると話していたビデオが暴露され、選挙管理委員会から4.3万ドルの罰金を科された⁹⁾。政権与党という立場を利用して、土地や雇用機会の提供といった形で国家の富をバラまき、支持をつなぎ止めて集票につなげるというからくりは、決して目新しいものではない。イラク国内でも、20年以上にわたって自治区を支配する「KDP」(クルディスタン民主党)はドホーク県、エルビル県、ニナワ県などでそうした強固なパトロンネットワークを築き上げている¹⁰⁾。こうしたパトロンネットワークは、政権にいる期間が長いほど、あるいは国家の富へのアクセスが確立するほど、より強力な支持獲得資源となり、現職の強みを強化する方向に作用する。莫大な石油収入を持つイラクであるがゆえにその資源が持つ効果は大きい。仮に、マーリキ首相が三選を果たせば、こうしたパトロンネットワークはこれからさらに強まることが予想されよう。

マーリキ人気を支える法治国家連合

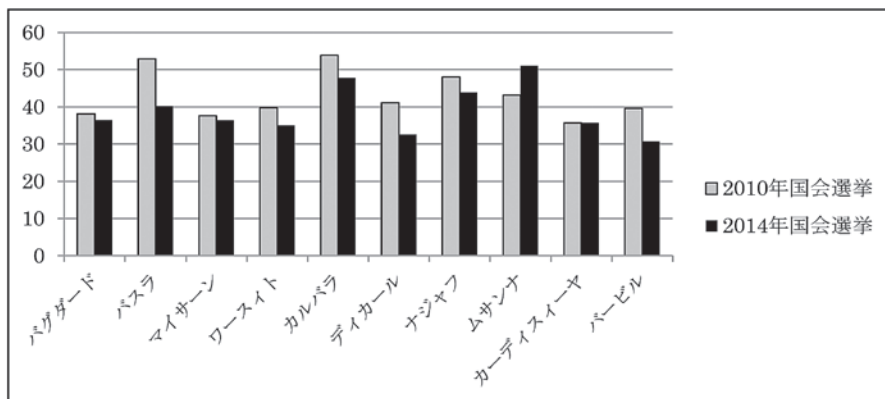
こうした選挙キャンペーンは、マーリキ首相の72万票という個人得票数に結実した。4年前の62万票から10万票を積み増し、全国トップの

得票数を記録した。第2位は「ワタニーヤ連合」のトップであるアッラーウィ元首相の22万票だったが、「イラーキーヤ」を率いていた4年前と比べてその得票数が半減したことからすると、マーリキ首相の一人勝ちの様相が際だつ。

この集票力は首相個人にとどまらない。カルバラ県では、首相の義理の息子2人が法治国家連合から出馬しており、フセイン・マーリキは5.4万票、ヤースイル・マーリキは4.8万票を獲得して当選した。国民議会選挙の立候補者は全国で9,000人以上に上ったが、この個人得票数はそれぞれ第16位と第18位に位置し、その人気の高さが見て取れる。ちなみに、首相の実の息子であるアフマド・マーリキは、選挙には出馬していないが、非公式ながら治安部隊を率いる立場にあることを首相自身が認めており、後継者とも噂されている¹¹⁾。

他方で、法治国家連合の得票という観点から見ると、その支持は必ずしも伸びているわけではない。主要な票田である首都バグダード県及び南部9県における得票率を4年前と比較すると、ムサンナ県とカーディスィーヤ県を除く8県全てで低下していることが指摘できる(図表2参照)。上記10県を合計すると、2010年の得票率40.8%に対して、今回は38.2%に留まった。得

図表2：法治国家連合の得票率の推移



出所：選管資料から筆者作成



投票所に並ぶ人々

票率が下がったにもかかわらず議席が増加した理由は、他の政党連合の分裂、とりわけシンナ派や宗派横断型の勢力が分裂して議席を減らす結果になったという、いわば敵失に負うところが大きい。従って、法治国家連合の支持基盤は4年前と比較して現状維持に留まったというのが実情であるが、それでも、マーリキ首相が牽引する形で、現職の強みをテコに他党より底堅い支持を確保していることが、勝利につながったと総括できよう。

選挙結果の確定と不正疑惑

選挙管理委員会が5月19日に発表した選挙結果は、開票率は100%だが、暫定結果という扱いになっている。この選挙結果に対して、その後の約10日間の不服申し立て期間に、選挙結果に納得できない政党や候補者から、893件の訴えが選管に寄せられた¹⁴⁾。これを受けて判事が構成する委員会が、選挙結果を精査し、確定するプロセスに入っている。

4月30日に選挙が行われてから約3週間後に暫定選挙結果が発表されるまでの間にも、選管に申し立てられた選挙違反や投開票における不正の訴えは2,006件に上っていた¹⁵⁾。選管は票の

集計と同時にそうした不正疑惑の確認作業を行い、その結果、不正が認定された300箱以上の投票を無効とし、不正に関与した選管職員1,000人以上を解雇したと発表した¹⁶⁾。投票箱自体はおよそ6万あることからすると、規模としては、不正は軽微なものに留まったと言える。国連や国際監視団、国内のNGOが組織する監視団が選挙に参加しており、投開票から集計に至るまで厳密な手続きが定められているため、大規模な不正は相当に難しいのが実情である。全国で8県の選挙をモニターした市民団体による不正報告でも、電子有権者カードの読み取り不具合や、家族や代理人などによる投票など、軽微な事例が圧倒的であった¹⁷⁾。今回の国会選挙に関しては、不服申し立ての検証を受けて多少の票の変動はあり得るが、暫定結果から大きくかわることはないと思われる。

ただ、国際監視団の展開は主として大都市に限られ、地方では国内NGOが投票所や開票センターへの立ち入りを拒否されるという事例も報告されている¹⁸⁾。300箱の投票無効を氷山の一角と捉えるならば、より重大な不正が現実には存在したという類推も成り立つ。選管は、不信を払拭すべく、バグダード県周辺の各投票所の

投票率や、兵士や警察官による特別投票日の投票結果など、細かなデータを五月雨式にウェブサイト公開したが、そうした対応が後手にまわっている印象は否めない。不正の訴えの多さは、選挙の重要性や関心の反映でもあると同時に、選挙のプロセスが十分に信頼されていない証でもある。選挙における透明性の確保と有権者の理解を得るための情報公開は、今後の選管の課題と言えよう。

組閣交渉の行方：注目は法治国家連合と INA

問題なく選挙結果が確定すれば、15日以内に新議会が招集され、新議長を選出、議会による大統領の選出、大統領による首相指名、首相による閣僚指名、そして議会信任を経て新政権が誕生する。大統領は名誉職だが、議会任期満了と同時に退任することになっており、国民議会選挙の度に新大統領が選出される。

従って、憲法上は、選挙結果確定後15日以内には新議長の選出に至ることになっているが、この期限は現実にはほとんど意味をなさない。というのは、首相、大統領、国会議長のポストは連立与党内のポスト配分の一部という性格があるため、連立の大枠が固まるまでは議長の選出に至ることができないためである。新議会は、一度は招集されるだろうが、組閣交渉がある程度まとまるまでは実質的に機能する可能性は非常に低い。

今後の最大の焦点は、最高権力者である次期首相の選出である。第一党となった法治国家連合には、いわば首相を指名する正統性があるといえる。選挙における獲得議席数95議席に加えて、選挙後に、1～2議席を得た小党を中心に、法治国家連合に合流する動きが出てきており、少なくとも7議席は増加している⁷⁷。マーリキ首相は6月2日のテレビ・インタビューで、すでに法治国家連合は組閣に必要な過半数（165票）を超える175票を確保したと述べるなど⁷⁸、統投



投票の様子。投票箱に投票用紙を入れる前に、二重投票防止用のインクを指につける。クルディスタン地域では県議会選挙も同時実施されたため、投票箱が2つある。

のモメンタムを形成しようと躍起である。

注目すべきは、「イラク国民議会」(INA)の動向だろう。4年前の選挙では、法治国家連合以外のシーア派政党がINAとして統一リストで出馬し、70議席を得ていた。今回の選挙には各党分かれて出馬したが、INAは議会会派として今もゆるやかな結束を保っている。そして、旧INAの主要政党（「サドル派」「市民連合」「国民改革潮流」「ファディーラ党」）の議席を合わせると77議席となり、議会においては一大勢力である。これまでの議会においては、INAと法治国家連合が「国民連合」(NA)の名で、やはりゆるやかな議会会派を形成してきた。現状は、法治国家連合がマーリキ首相を早々と次期首相にノミネートする一方、INAの主力勢力であるサドル派（34議席）や市民連合（31議席）は、三選反対を明確にしており、NAとして議会会



開票の様子。

投票が締め切られた後、深夜まで各投票所で開票作業が行われた。

派を形成するかどうかは不透明である⁹⁹。いずれにせよ、法治国家連合とINAをあわせると過半数を優に超える勢力であること、首相ポストはシーア派から選出されることが暗黙の了解になっていることから、この2つのブロックの動向が重要となる。

予想される4つの次期首相選出シナリオ

今後の展開としては、マーリキ首相の続投か交代か、挙国一致型政府か多数派の政府か、という2つを軸に、以下の4つのシナリオが考えられる。

(1) 挙国一致型による第三次マーリキ政権

マーリキ首相が選挙の余勢を駆って主要政党に対して続投を容認させるというシナリオであり、基本的には主要政党全てが政権に参加する従来型の挙国一致内閣の継続である。勝ち馬に乗ろうとして法治国家連合支持を打ち出す政党が増えれば、この流れができてくる可能性がある他、下記のいずれのシナリオも不発に終わった時、結局このシナリオに帰着するという可能性は十分に考えられる。

(2) 多数派の政府による第三次マーリキ政権

マーリキ首相が望んでいるのが、この多数派の政府、すなわち路線を同じくする勢力のみが与党となって165議席以上を確保するシナリオである。シーア派、スンナ派、クルドの全てのコミュニティから親マーリキの政党を集め、すべての民族や宗派を代表するイラク政府という建前を維持しながら、機動力を持った政府を形成するというものである。だが、クルド勢力は組閣交渉には統一戦線を組むことを明言しており、一部のクルド政党の一本釣りは難しい。また、シーア派の結束を乱す動きに対してはイランが介入する可能性もある。

(3) 反マーリキ勢力が結集して法治国家連合から後任選出

マーリキ三選反対を公言する政党は、サドル派(34議席)、市民連合(31議席)、ムッタヒドゥーン(27議席)、ワタニーヤ連合(21議席)、クルド勢力(62議席)などがあり、仮に彼らが結集すれば175議席で過半数を超える。そして、その数の力をもとに、選挙で最大政党となった法治国家連合に対して、マーリキ以外の首相候

補を出すことを求めるというシナリオである。三選に反対している勢力は、マーリキ個人の強権的政治手法に反対しているケースが多いため、法治国家連合から他の候補者を受け入れる余地はある。その場合、禪譲後にマーリキが院政を敷くのか、権力の交代につながるのかは、次期首相の人選によるだろう。このシナリオの場合、ポスト・マーリキによる挙国一致内閣の継続とも言える。

(4) 反マーリキ勢力が結集してINAから後任選出

上記の反マーリキ勢力が結集し、INAから首相を選出するというシナリオである。議席数から判断すると、市民連合ないしはサドル派からということが考えられる。ただ、サドル派は米軍撤退後も米国政府との公式な接触を拒否しているため、その方針を取り続けるならば、サドル派の首相という選択肢は現実的ではなく、市民連合の方があり得るだろう。この場合、法治

国家連合が野党になるとすると、多数派の政府の逆バージョンということになるが、反マーリキの一点だけで結集した勢力が結束を保つことは難しいことが予想される。あるいは、法治国家連合が与党に参加すれば、(3)の変形版でポスト・マーリキによる挙国一致内閣継続というシナリオになるだろう。

今後、選挙結果の確定を受けて各党の間で連立交渉が本格化することになる。折しも6月初旬からISISが急速にテロ活動を活発化し、イラク第二の都市モスルなど複数の町を陥落するに至り、予断を許さない情勢が続いている。こうした治安情勢の流動化が組閣交渉にどのように影響するかは未知数だが、新政権の発足に至るまでの交渉には、数ヶ月単位の時間がかかることだけは間違いのないだろう。

(2014年6月12日脱稿)



集計センターの様子。
各投票所で一次集計が終わった投票箱は集計センターに運ばれ、
確認のため再度全ての票がカウントされる。

(注)

- (1) “UN Casualty Figures for May 2014, Anbar Province Excluded,” UNAMIウェブサイト, 2014.06.01.
- (2) イラクの治安状況については拙稿「広がるイラクの地域間治安格差」中東動向分析, 2014.02.28を参照。
- (3) Mushreq Abbas, “Maliki Got Election Assist from Anbar Crisis,” al-Monitor, 2014.05.19.
- (4) Mustafa Habib, “Iraq Votes 2014: Election Posters Reveal Hidden Messages, New Alliances, Surprising Strategies,” Niqash, 2014.04.10.
- (5) Ahmed Ali, “Iraq’s 2014 National Elections,” Middle East Security Report 20, 2014.04.
- (6) Idh’a al-Iraq al-Hurr, “maqtar mudir maktab idha’a al-iraq al-hurr fi Baghdad,” 2014.03.22.
- (7) Harith Hasan, “Maliki Goes on Offense as Elections Approach,” al-Monitor, 2014.04.25.
- (8) Uticensis Risk Services, Inside Iraqi Politics, Issue No.82, p.7.
- (9) Harith Hasan, “Iraqi MP Fined for Offering Land for Votes,” al-Monitor, 2014.05.15.
- (10) 拙稿「イラク・クルディスタンの変わりゆく権力構図－第4回議会選挙の結果から－」中東協力センターニュース, 2013.12/2014.01を参照。
- (11) Shafaq News, “Maliki Opens His Son’s File ... Security Hero or Iraq’s Next New Leader?,” 2013.10.16.
- (12) Shafaq News, “893 Appeals on Results of Parliamentary Elections and 28 on Kurdistan Elections,” 2014.06.04.
- (13) Muhammad Sabah, “al-mufawwadhiya : maw’id i’lan al-nata’ij sayuhaddid khilal yawmayn wa intahina min sanadiq 15 muhafaza,” al-Mada, 2014.05.14.
- (14) al-Sumariya News, “al-mufawwadhiya : tamm ilga’ akthar min 300 mahatta wa ihala al-alaf al-muwazafin lil-qadha’,” 2014.05.19.
- (15) al-Qurtas News, “munazzamat tarsud khuruq al-intikhabat fi thamani muhafazat,” 2014.05.07.
- (16) 有識者への聞き取り調査。2014年5月1日, スレイマーニーヤ県にて。
- (17) Uticensis Risk Services, Inside Iraqi Politics, Issue No.86, p.3.
- (18) al-Mada Press, “al-maliki : namlik 175 sawtan madmunan li-tashkil al-hukuma wa ala al-kutal qira’ al-taghyirat,” 2014.06.02
- (19) al-Hurra, “al-‘iraq.hal yanjah ‘Ttilaf’ wa ‘dawla al-qanun’ fi ihya’ al-tahaluf al-watani?,” 2014.05.29.